

大／阪／の／建／築／ま／ち／あ／る／き——「東大阪」

きんてつはなぞのらぐびーじょう 近鉄花園ラグビー場



メインスタジアム観客席



エントランス



観客席背面



エントランス前の円形広場

所在地： 東大阪市長原南一丁目 1-1

最寄駅： 近鉄奈良線東花園駅下車

徒歩約 10 分

試合開催日のみ開場

東大阪市を象徴する近鉄花園ラグビー場は、昭和 4 年（1929 年）、大阪電気軌道（現在の近畿日本鉄道）によって日本最初のラグビー専用グラウンドとして開場した。全国高等学校ラグビーフットボール大会会場としても全国的に有名で、「花園」と言えばラグビーの聖地と言っても過言ではないだろう。

1991 年の改修工事により、収容人数 1 万 2000 人から 3 万人に拡張されたメインスタジアムの他にも 2 つのサブグラウンドを有しており、メインスタジアム以外は地域のためのグラウンドとしても身近に利用され、いずれも色鮮やかな天然芝が一面に敷き詰められている。

メインスタジアムに目をやると、西側観客席のコンクリート塊とそれを覆う鉄骨トラスの大屋根がその外観を特徴づけている。試合開催日には観客で埋め尽くされ、グラウンドの選手の気迫と相まって、スタジアム全体が熱気で満ち溢れる。

南面するエントランス前では、イギリスのストーンヘンジを連想させる巨大石碑が環状に並んだ円形広場が人々を出迎え、憩いの場を提供している。毎年ゴールデンウィーク明けに開催される東大阪最大の市民祭り「ふれあい祭り」では、この円形広場を中心に、辺り一帯がお祭り会場として大いに賑わうことになる。

また、周辺の豊かな緑地帯は「花園多目的遊水地」として整備されており、大雨の際には脇を流れる恩智川の洪水を一時的に貯留することにより、洪水被害を防ぐ機能を有している。

（仙入 洋）